



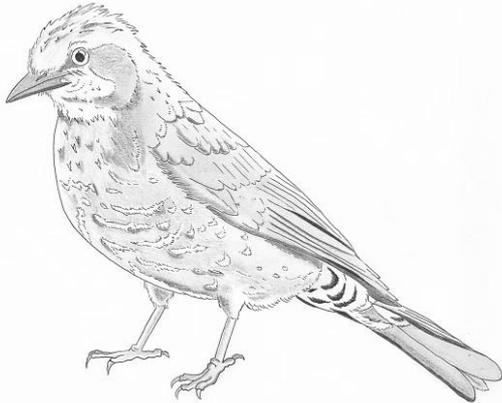


# とねり自然図鑑



動物、昆虫や花などいろいろな自然の写真を「フォトクラブメビウス」の会員方にご協力いただき、毎月発行しております。写真にちなんだ「へえ〜」という情報もお楽しみに。

【撮影した竹内さんのつづやき】 とても天気の良い日、梅の木の枝にヒヨドリが止まっています。空は雲がなく青色一面で、写真を撮るとまるで絵画のようになりました。



名称：ヒヨドリ（鶉）  
 学名：*Hypsipetes amaurotis*  
 体長：約27.5cm  
 体重：70g-100g  
 分布：日本、サハリン、台湾、中国、  
 フィリピン  
 主食：花蜜、果物、昆虫  
 天敵：カラス、ネコ

## 【飛び方のプロ】

○ヒヨドリは渡り鳥とは違い、漂鳥に分類される鳥です。渡り鳥というのはよく聞きますが、漂鳥というのはあまり聞き慣れないかもしれません。漂鳥は日本の中を飛び回る鳥で、渡り鳥は海外にまで渡る鳥のことをいいます。

日本国内といえども、飛び回るヒヨドリは鳥の中でも飛ぶのが上手といわれています。数百羽、数千羽のヒヨドリが海上スレスレで飛び、ハヤブサの攻撃を難なく交わします。

ヒヨドリの飛び方の特徴は、翼を頻繁に開いたり閉じたりして、上下に波打って（波状飛行）飛びます。敏捷性も高く、機敏に飛び回る虫を追っかけて空中でキャッチします。また、空中に止まるホバリング（停空飛行）などもできます。これはとても技術が必要な飛び方で、出来る鳥は珍しいそうです。

## 【鶉越えの逆落とし】

○平安時代末期の寿永3（1184）年、平家討伐を源頼朝に命じられた義経と範頼は、平氏を挟み撃ちにするため二手に分かれました。義経の軍勢は「鶉越（ひよどりごえ）」と呼ばれる絶壁（現神戸市兵庫区）の上から、「この崖を鹿が下ったというなら、馬でも下れるであろう」と、合図とともに馬ごと駆け下り、崖下の平氏の陣へ一気に攻め入り、不意をつかれた平氏は海になだれ込み、船で瀬戸内海を渡って屋島へ逃げました。

これは、源平合戦「一の谷の合戦」の名場面です。ここに出てくる「鶉越」という地名は、海を渡ってきたヒヨドリが、絶壁をなす急斜面を一気に昇っていくさまを見て付けられたと伝えられています。

## 『舎人図書館にある参考資料の一部を紹介↓』

小宮輝之 『里山の野鳥ハンドブック』 NHK出版  
 吉田 巧 『鳴き声と羽根でわかる野鳥図鑑』 池田書店  
 本山賢司 上田恵介 『鳥類図鑑』 東京書籍

毎月集めて、舎人地域学習センター・図書館のオリジナル図鑑をつくろう！